



# 神前結婚式ブーム再来 模擬結婚式を開催 （玄海ロイヤルホテルとタイアップ）



## 4月祭事暦

- 春季大祭**  
 ○4月1日 午前11時 **大祭**  
 (氏子奉幣、主基地方風俗真、浦安舞)  
 ○4月2日 午前11時 **総社祭**  
 (献上若布採取者表彰)  
 午前11時40分 交通安全講話  
 高宮祭 第二宮・第三宮祭  
 宗像護国神社春祭  
 午後2時 献茶祭  
 (南坊流小方社中)  
 午前9時 **奉納 剣道大会**  
 ○4月12日 午前11時 **沖・中西宮春季大祭**  
 於=大島・中津宮  
 ○4月15日 **月次祭**  
 午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭  
 引き続き 宗像護国神社参拝  
 午前11時 総社祭  
**豊栄舞 奉奏**  
 ○4月29日 午前11時 **昭和祭**  
 引き続き 宗像大社奨学金受給生奉告祭

二月十二日(日)地元玄海ロイヤルホテルとタイアップし、これから結婚式を検討されている方を対象としての模擬結婚式が、当大社清明殿で開催された。

この時期、同ホテルで春のブライダルシーズンに向けてフェアを開催すること、ことで提案を受け、地元ホテルの企画に当大社も全面協力し、初の模擬神前挙式を開く運びとなった。

神前結婚式ブームの再来といわれる中で、十一月十五日には紀宮清子内親王殿下と黒田慶樹氏との御婚儀が東京・帝国ホテルで催され、その影響からか、若い方より神社での結婚式を希望する方が増えてきている。



当大社におけるここ十数年の傾向は、清明殿で神前結婚式を挙げ、車で約十分の距離にあるリゾートホテル「玄海ロイヤルホテル」を始めとする近隣の諸施設で披露宴というパターンが最も多い。

同ホテルブライダル担当者によると、披露宴の受付をする中で当社での挙式を希望されている方が非常に多いが、「神社への申し込み方法」や「結婚式の進行内容が分からない」などの声が聞かれ

祭典後には必ず、神前に供えられた御饌御酒を戴く直会(なおらい)の儀が行われる。

神々がお召し上がりになられたお供え物を戴く事で、神々の恩恵を戴く事が出来るのである。祭典を奉仕した神職も参列者も共に神様と同じものを戴き、神と人が一体となる「神人和楽」が、直会の根本的意義である。

祈願の後に神酒を戴く事を直会の儀とするのは、酒が神饌の中でも米から造られる重要な品目であり、また調理せず、その場で戴く事が出来る為、象徴的に行われるものとなった。



また、直会の語源は、「なほりあひ」とする説がある。神職は祭典奉仕にあたり、心身の清浄に努めるので、通常の生活とは異なる制約がある。祭りの準備から祭典を経て、祭典後の直会をもって全ての行事が終了し、元の生活に戻る。つまり「戻る」直る「がその役割であり、直会が祭典の一部である事を指している。

直会が神事として一般の宴と異なるのは、こうした意義をもって行われているからである。

(T.S)

**神具・装束 結婚式場調度品**

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31  
 電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入  
 電話 (075)341-3341(代)~4番  
 (075)343-3341番

**木組の家 匠の技**

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



ることであった。  
 当日は、まだ寒さの厳しい中であつたが、神社での挙式を是非体験してみたいと、約三十余名の方が御来社された。  
 参加者は、まずは社務所で結婚式の申し込みについての説明を受け、神職の案内で御本殿を参拝。続いて、皆様へ本番同様桜茶を

振舞つた後、モデルの新郎新婦と合流、厳肅な儀式に臨むため緊張した面持ちであつた。  
 そして、巫女の先導により清明殿へ参進すると、祭儀部の神職による挙式進行の解説を交えながら、雅楽の調べに包まれて、模擬神前挙式は無事に終了した。  
 既に当大社へ式を申し込まれて

いる方もおり、祭典終了後には、神職へ様々な質問が寄せられ、熱心に神前挙式について学ぶ事が出来たようであつた。  
 大神の大前で永遠の愛を誓う、祖先より祈り続けられてきた、人生の新たな門出の儀式。若い世代の人々に改めて神前挙式について関心を持たれた今、古来より語り

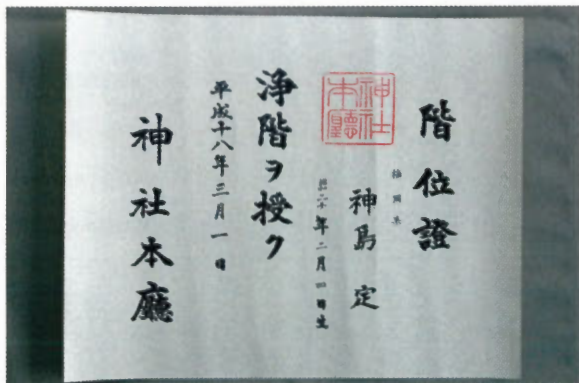
継がれてきた我が国の伝統を今後も、大切に守り続けたいものである。



## 神島宮司 階位浄階 身分一級に昇進

神島宮司には、この度三月一日付で階位「浄階」、神職身分「一級」に昇進され、三月十六日神社本庁において授与式が行われました。

維持運営に力を注がれ、平成十五年から宮司に就任致しました。また神社本庁参与、県神社庁理事など神社界においても多くの役割を歴任し、この永年に亘る神明奉仕と祭祀の厳修、御神徳の発揚に貢献された数々の功績により今回の昇進と成つたものと存じます。



# 氏貞公墓前祭

三月四日、午前十一時より当社第八十大宮司、宗像氏貞公の墓前祭が寒風肌刺す中、例年通り斎行された。

この墓前祭は、氏貞公逝去四

〇〇年忌にあたる昭和六十一年に、当大社と菩提寺である承福寺との墓石保存の協議の折、神式と仏式で隔年毎に墓前祭を奉仕することが定められ今日に至る。



本年は、当社の

当番年であり、神職三人奉仕の下斎行された。祭典には、当社高向権宮司、承福寺埜村住職、隣船寺田代住職、初代大宮司清氏公以来宗像家に仕え又、代々墓守をしてきた占部家、又墓所のある上八今門地区の住民など多くの人々が参列し、氏貞公の威徳を偲んだ。

地方からは、毛利氏が九州へ侵攻してきていた。大友・龍造寺・毛利氏が衝突する地は、筑前及びその周辺地であった。この地方に存在する宗像氏を始め諸勢力は、その時々を情勢を正確に判断し行動しなければ、滅亡する時代であった。

このような困難な時代に大宮司職を継いだ氏貞公は、深謀遠慮を巡らし神郡宗像をこれら外敵から守り落日の宗像大宮司家の再興を図った。また戦乱のため衰微していた社寺等復興も行う。

弘治元年（一五五七）本殿内陣よりあがった火は、本殿・拜殿を焼き又多くの神宝が灰燼に帰した。それから約二十年の時を置き氏貞公が厳しい時勢の中、再建された。これが現在の辺津宮本殿である。

これ以外にも神郡内の荒廃した社寺の復興、現在の上八辺りの田地を御神米用田として寄進、神社の改革（祭祀の厳正化等）等々、宗像大神の神威の護持に努められた。しかし氏貞公は、志も半ばの四十二歳、鶯ヶ岳城にて風邪が遠因となり病没される。敵に侵略の際を与えない為、その死は、三年間秘されることになり、亡骸は、

占部右工門によって密かに現在の地へ運ばれ埋葬された。以後、代々占部一族が守ってきた。

その後、間もなく氏貞公の願いも叶わず、豊臣秀吉の命によって継嗣のいない宗像大宮司家は断絶となり、その御神威を遍く知られた宗像大社も次第に衰微していった。

今回の墓前祭を通し、戦国乱世の混迷する時代に、当大社の存立危うき中をよく守り抜かれた中興の祖・氏貞公御一代の生涯に思いを馳せ、我々も日々神徳宣揚に心を尽くす誓いを新たにしました。



## 平成18年・日本海々戦101年 沖津宮現地大祭の御案内

今年も沖ノ島西方洋上で明治38年に行われた日本海海戦を卜して、年に一度沖ノ島に渡島参拝できます『沖津宮現地大祭』が斎行されます。

下記、要項で参加者を募集致しますので、参拝ご希望の方はお申し込み下さい。

### 沖津宮現地大祭要項

- ① 参拝者は沖津宮奉賛会費として1名につき、**20,000円**お納め頂きます。
- ② 参拝御希望の方は、当大社より『参拝申し込み書』をお取り寄せ頂き、**4月30日迄(必着)**に社務所まで御返送下さい。
- ③ 沖ノ島渡島前日の5月26日(金)午後6時迄に中津宮(筑前大島)に到着し、受付を済ませ、渡島安全祈願祭に御参列していただきます。(祭典後、各班ごとに説明会を行います)
- ④ 5月27日(土)午前6時に大島港を出港。  
・沖ノ島到着後、直ちに海水で禊をして頂きます。  
・祭典は午前10時の予定です。  
・午後1時、沖ノ島を出港し、大島着島は午後4時の予定です。
- ⑤ 大島・神湊間のフェリー最終便は午後6時です。
- ⑥ 海上模様等で沖ノ島渡島が中止になった場合は、大島の沖津宮遥拝所で祭典を斎行致します。
- ⑦ 乗船者数に制限がありますので、定員を超える場合には御遠慮願います。
- ⑧ 年令70才以上の方や、関係筋の通達により健康状態が良好でない方、長時間の乗船に耐えられない方は御遠慮願います。
- ⑨ 申し込み者には、受付後参加の諾否を葉書で御通知申し上げます。



中津宮(大島)での渡島安全祈願祭(前日の26日)



海中での禊



沖津宮(沖ノ島)での現地大祭(27日)

### 沖津宮参拝心得

- ① 遊山・魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。  
もし違反があれば乗船をお断り致します。
- ② 沖ノ島上陸の際は、古例により海水で禊をし、心身を清める事。
- ③ 御神水以外は、一木一草一石たりとも持ち帰る事を禁止します。
- ④ 厳重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断わり致します。  
大島での宿泊につきましては、参考要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自で直接予約願います。  
申込書・参拝心得・参拝要項等を用意しておりますので、返信用切手を同封の上、下記宛までお申し込み下さい。

### 申し込み先

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331  
宗像大社社務所 祭儀部『沖津宮現地大祭』係  
TEL (0940) 62-1311 (代表)  
FAX ( / ) 62-1315



船上から見た沖ノ島





欧米の石油産業は一九九八年（平成十年）から九九九年にかけ、わずか二年たらずの期間に驚くべき変貌を遂げた。それは「石油の世紀」を支配した国際資本が、経営環境の変化に応じ、生き残りをかけて演じた業界再編成のドラマであった。

背景には、九七年からの深刻なアジア経済危機に伴う、石油需要の減退、およびOPEC（石油輸出国機構）諸国の生産枠拡大がある。価格の下落、低水準での推移が、石油産業界を直撃した。

第二次大戦が終わった直後の四七年には、メジャーズ七社（セブン・シスターズ）による、世界の石油産業支配のシステムがほぼ完成していた。石油の生産と価格の決定は、国際カルテルの掌中にあった。

しかし、六〇年九月にOPECが結成され、十年後の七一年のテヘラン協定、トリポリ協定で、石油公示

出光興産株式会社

# 出光佐三

店主 その19

## 新しい世紀と出光

④

### 石油の世紀終幕の大競争



元売り会社の再編の劇的であったが、96年（平成8年）の自由化以降、給油所の生き残り競争も激化している。

価格の決定はOPECとメジャーズとの協議による、こととなった。メジャーズ支配の終焉である。

これに追いつけなかったのが、七三年（昭和四十八年）からの二度にわたる石油危機であった。

石油危機のあと、石油産業界は需要減と規則

緩和、代替エネルギーの進出、環境対策の強化、などの対応を迫られる。業績も悪化し、単なるリストラ、コスト削減では生き残りさえ危うくなった。

業界再編、合併劇が繰り返された結果、世界の石油産業界はエクソン・モービル、シェル、BP（ブリティッシュ・ペトロリアム）・アモコの三社に集約された。一九二〇年代のスタンダード（エクソンの前身）シエル、アングロ・イラニアン（BPの前身）三社体制の復活スパー・メジャーズの誕生である。

同じ時期、国内でも合併、提携が相次いだ。

九八年十月の日石、三菱の合併合意（翌九九年四月合併）は衝撃的であった。日石三菱は合併後、業界三位のコスモ石油と提携し、精製能力の国内シェアは三六%となった。

二〇〇〇年二月には、エクソン・

モービル傘下の東燃とゼネラル石油が合併に合意、エッソ石油、モービル石油を加えた四社で新会社を設立することになった。続いて同年三月、ジャパンエナジーと昭和シェル石油も、事業を統合することになった。

この結果、わが国の石油精製、元売り業界は日石三菱・コスモ石油グループ、エクソン・モービルグループ、昭和シェル・ジャパンエナジーグループ、それに出光興産グループの四つに再編された。

出光の販売シェア（燃料油合計）は、九九年度一六・四%である。日石とトップを争う位置にあったが、他社が合併、グループ化したため四グループの最下位となった。

石油にたいする需要は、今後人口の停滞、製造業の海外進出、電力・ガスの天然ガス化などから減少が予想される。しかし総合エネルギー調査会の見通しでは、わが国の二〇一〇年度の一次エネルギー構成比で、石油が四七・二%を占める。当面、石油が最も重要なエネルギー源であることに変わりはなく、世界的にも中東やカスピ海などの資源獲得競争は激化している。

日本、そして出光は、これにどう対応するであろうか。

(続)

# 浜の奇物

202

いしい ただし

## 男たちの大和 ②

昭和二十年四月沖繩戦がはじまる。大和に出撃が命じられた。「沖繩ノ敵泊ニ突入シ、所在ノ敵輸送団撃滅スベシ」。海の特攻作戦



である。命が下った時伊藤整一艦長は憤然とした口調で言った。「一機の護衛の飛行機もなしに、こんな作戦が成功すると思うか？ 無謀だ、とても作戦とは言えない」(男たちの大和)

軽巡洋艦「矢矧」  
(六五五二トシ) 駆

逐艦八隻、航空機の掩護はなかった。全く無謀な死場所を与えられた出撃であった。「用兵者がその使用目的を誤ったために本来の目的に使われずに終わった」(大海軍を想う。伊藤正憲)

三月二八日、呉を出港、三田尻沖から徳山沖泊地へ。四月六日沖繩に向けて出撃「先導する巡洋艦の矢矧である。菊



水の幟を立てた八隻の駆逐艦がそれに続き、大和はしんがり走ってゆく。

内海から豊後水道を経由して太平洋に出て沖繩をめざすのである。大和が別府湾を通過したのは、まだ日暮れ前だった。艦橋に立っている見張員が「桜だ、桜が咲いている！」と大きな声で叫んだ(中略) 山桜の美しいひっそりとした立ち姿は、まるで第二艦隊を見送っているかのようなだった」(男たちの大和)

七日、鹿児島島の南端へ、六時には米艦載機が飛来。浮塵のように雲間からあらわれ、魚雷、爆弾、機銃を浴びせる。軽巡、駆逐艦五隻は沈没。一四時三十分頃に大和は沈没。北緯三十度四三分一秒、東経一二八度四分〇四・〇秒

「復原力も前進力もなくした大和は不気味なきしみ音をあげながら朽ちた巨木のように徐々に横倒れになってゆく。その傾斜角度が大きくなるにつれ、歩くことも立っていることも困難になり、つかまるもののない甲板上の兵たちは悲鳴をあげて海にすべり落ちていった。艦も兵も断末魔の叫びをあげていたが米軍機はとどめを刺すべき四方から猛烈な爆撃を加えてくる」(男たちの大和)

「徳之島ノ西方二十哩ノ洋上、「大和」轟沈シテ巨體四裂ス、水深四百三十米、今ナホ埋没スル三千ノ骸、彼ラ終焉ノ胸中果シテ如何」(戦艦大和の最期・吉田満) 乗員三三三二人、生存者僅か二七六人。

昭和六十年(一九八五)海の墓標委員会は大和沈没地を二回にわたり調査艦の確認と一部遺品を引き揚げている。大和ミュージアムにそれが展示されている。ドンブリ、ホーローびき食器、酒ビンやビールビン、靴底、浴室のタイル床…乗務員たちの声が聞えてくるようだ。

尾道の「男たちの大和」のセットが五月まで延期される。セットとはいえその巨大な姿、一部精巧に復元され、実感できるし、大和とは、戦争とはを考え、問いかけてくる。一見の価値がある。





# 神郡宗像

# 末社めぐり

## 三十九 田熊貴船社(田熊神社境内貴船神社)

前号の東郷小学校校庭の裏山、眼下に東郷の街並みを臨む示現神社の境内、御本殿の後方に石祠の末社が整然と鎮座している。

御縁起に百八社の一つとして「田熊貴船」と見え、正平年中行事続風土記附録 宗像郡上 田熊村の條には、「貴船四祀 ナカオ二祀、ホリ、ヒライ」とあり、田熊村内に貴船社が四社あり、何れもこれと定めがたいとされ、同拾遺 十八同村の條にも、その小字中尾に二所同堀・平井のある貴船社の何れかが、「正平年中行事神事の條の田熊貴船社、十一月神事」とあるものに當



り、時代の變遷と共に、宗像大社の七十五末社の内にある古社もその姿を変えてはいるが、氏子の人々の心には根強く生き続けており、現在の石祠の前でのお祭りも地域に根ざした形で、連綿と斎行されている。

明細帳は東郷村大字田熊字中尾鎮座、田熊神社(舊村社)の境内社田熊貴船社をもつてこれとするとあるが、現在の示現神社(田熊神社)の境内末社には貴船神社が二社あり、更には大字田熊字堀に貴船神社(舊無格社)が一社があると宗像神社史には載っているが、果して何れの社がこれに当るのか検討すべきであるも、現在堀という小字名も無くなり、その所在も不明である。

「鷺津酒類製造場」の近隣を旧小字で堀と呼ばれていたそうで、以前に小さな社があったという話を聞か、今は閑静な住宅地となっており、地名の標示も宗像市田熊三丁目とされ、祠の場所もわからず時の流れを感じる。



四月一日付で左記の通り、人事異動を行いました。

### 人事異動(神職)

四月一日付で左記の通り、人事異動を行いました。

宮司	神島 定	神宝館々長
権宮司	高向 正秀	社務本局長
禰宜	堤 宏	祭儀部長
菅津 幹之		文化財管理事務局局長(兼)
伊藤 佳和		海洋分局長(中津宮)
渡邊 秀丸		宗像大社菊花会事務局局長(兼)
		主基地方風俗舞保存会事務局局長(兼)
		庶務部長
		五月寮責任者(兼)
		經理部長
		宮司兼務社管理主任(兼)
		津加計志神社管理主任(兼)
		(財)式内社顕彰会九州支部事務局主任兼
		祭儀部長代理
		宗像護国神社管理主任(兼)
		祭儀部 儀式課主任
		氏子会幹事長(兼)
		庶務部 庶務課主任
		宗像大社菊花会事務局局長(兼)
		宗像大社氏子会幹事(兼)
		經理部 用度課員
		宗像大社菊花会事務局員(兼)
		文化財管理事務局員(兼)
		庶務部 庶務課員
		氏子会幹事(兼)
		庶務部 広報課員
		宗像大社歌会担当(兼)
		氏子会幹事(兼)
		祭儀部 賽務課員
		氏子会幹事(兼)
		經理部 会計課員
		庶務部 広報課員(兼)
		主基地方風俗舞保存会事務局局長(兼)
		祭儀部 賽務課員
		經理部 用度課員
		宗像大社菊花会事務局員(兼)
		祭儀部 儀式課員
		文化財管理事務局員(兼)
		祭儀部 儀式課員

吉野 理

松林 拓

飯田 宏

藤田 俊介

長友 貞治

飛來 孝佳

大塚 宗延

御床 直之

坂本 敬

中原 裕生

佐々木 大治

杉山 安彦

伊藤 佳和

渡邊 秀丸

菅津 幹之

伊藤 佳和

渡邊 秀丸

菅津 幹之

伊藤 佳和

渡邊 秀丸

菅津 幹之

# 第五三五回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



宗像市 田久 巻 桔梗

簫蕭と風の強きに高宮の神籬の幣がうも揺れざり

(評) 情景も気持も判るのだが、漢字の多いせいも、表現がいささか固い。初句「空をゆく」ではどうか、がうは毫でいささかも、の意。

宗像市 池田 森 龍子

綿雪の透きつつ雨に変わりゆく梅の蕾の淡きくれなる

(評) いい歌だが、上句と下句と並列対比の形になっているのが惜しい。下句は「梅の蕾のふくらむ午後」など考えたい。

福岡市 南区 井田 有久衣

病室で寿ぐ元旦とそもなく雑煮もなければ生きている幸せ

(評) 生かされていることの喜びを素直に詠っているが、情景に即き過ぎると歌に飛躍がない。と言ったことを、作者のみならず、皆さん承知して欲しい。

福岡市 中央 池浦 千鶴子

名ばかりの立春なりしと思ひしが桜並木はうるみて立てり

(評) 季の移りに敏感な植物への驚きを詠っているが、上句が常套的なのが残念。

宗像市 曲 天野 玲子

賞味期限の切れたるパンをかじりをり捨てるにしのびず戦中派我は

(評) 何も彼も乏しい時代を耐え励んだ戦中派があつての今の日本である。

福岡市 在 自 佐々木 和彦

かつて見し雉は何処に潜まんか萌えんとしているカルスト台地

(評) 作者の見た雉は一年前か二年前か、ロマン性のある一首である。

福岡市 中央 中村 勇

イタリヤのトリノの町を知りたくて杖をたよりに市の図書館に

(評) 加齢しなお覆録たる作者に幸あれ。

宗像市 日の里 大和 美由紀

新しき車の側に夫とわれ二月の宮に御被受くる

(評) 敬神のころと喜びが伝わってくる。二月の宮の具体が一首に花を添えた。

宗像市 田野 森 甲子

拉致問題解決なかなかはかどらず先の戦争いつまで尾を引く

(評) 戦争の残した傷痕の大きさを嘆いた暗のうた。

宗像市 大井 木原 ふさ子

三歳児園児の兄に習ひしか英語の歌をよどまず歌ふ

(評) こちらは戦後の明のうた。様変りに対する作者の驚きはまた同世代共通の驚きである。

宗像市 大島 杉田 禮子

戴きし海の幸盛るこの夕餉夫と二人で飲む酒うまし

(評) 作者を知る私は、激務から解放されようやく得たお二人の平和に心よりよろこびを申し上げる。

福岡市 光陽台 香月 照子

紅梅はこぼれるばかり咲き匂ひあの寒き冬夢かとばかり

(評) 気持は判るが、もう少し表現を押えて詠って欲しい。

うきは市 浮羽町 向 則正

川土手に水仙が咲き菜花見ゆ立春の朝をひとり歩めり

(評) この歌も「水仙が咲き菜の花が咲きてる朝の川土手ひとり歩めり」位に押えて詠って欲しい。

福岡市 若木台 野間 精一

氷上の演舞を終へし二人組額つけあひ涙流せり

(評) フィギュア、ペアのアメリカ代表の井上怜奈組のことか、ドラマの多かつた今回のオリンピックピックであった。

選者 詠

予選すら叶はぬ日本の選手たちそれでも妻はテレビ見てをりメダルにははるかに遠き日々続きばつ悪さうなアナの皆さん負けたるが判つてゐるのにまた映るオリンピック歌唄けたたまし



## 宗像大社 歌会 俳句作品集(五一)

宗像市 東郷 田中 憲象

受験生切なる願ひ竹燈籠

宗像市 光岡 井上 嘉治

雪解けの水跳ねあげて鳴走る

宗像市 光岡 白土 凌一

鶯の鳴く声も楽し吾胸も

宗像市 日の里 花田いつ枝

塔播らす神鼓の連打山笑ふ

宗像市 日の里 佐藤 純一

初雪はヘッドライトにうねりかな

宗像市 東郷 宗風社俳句会

年の夜や押しつ押されつ神前へ

吉武 湧泉

青年の抱く大志や冬怒涛

吉田 杏子

如月の立花山の影うすし

三浦美千代

早春や歌の碑多き城下町

田中 雨葉

早春の渚を駈ける馬二頭

木原 房子

### 編集後記

春です。陽気も良くなり、年度始めということもあり、気持ちも新たに  
なりまます。▼続報です。生後三ヶ月で空を飛び、予定通り息子が来福しました。このまま帰って来ないのではという風評もあつたよって、ご心配をお掛け致しましたが、良妻も何とか帰っていただけるとの報告伏せ(ウソです)四ヶ月振りに無事帰福しました。▼まずは、風宮入れから特訓中ですが、もう出来なくなることもタツプりであり、ことごとく朝家を出る時間が早くなり、残業に積極的になりつつあるような、そんな自分に少し嫌悪感を抱きながらも、家族が一人増えての春を迎えた次第です。(M.O)

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 ジーエータップ  
印刷 セネラルアサヒ

宗像大社社務所 発行所

定価1年送料共1,000円